

## 令和5年度「ながさき水産業大賞」受賞者の概要

### 1. 長崎県知事賞

部門名	受賞者名	概要
優良経営	鮎浦漁業協同組合自営定置 (平戸市)	全国有数の水揚を誇るシイラのブランド化のため、脂肪量の基準を満たした雌のシイラを「とよひめ」として商標登録するとともに、オゾン殺菌や神経メなど漁獲物全体の鮮度向上に取り組んだことで収益性の向上と消費拡大に繋がった。 また、就業者の積極的な呼び込み、地元組織と連携した移住者の受け入れ、就労環境の改善や地元イベントへの参加などにより、魅力ある雇用の場の創出と地域の活性化に繋がっている。
技術革新・人材育成	荒木 和也 (五島市)	定置網の魚が入りやすい構造への改良と網の増統などによる水揚量の増加、出荷魚への神経メによる品質向上により、水揚額の大きな増加と雇用の創出を実現した。 地元の奥浦地区においては、魚市場出荷時に使用する発泡スチロールを再利用可能なプラスチック製容器へ転換することを提案して実現し、さらに神経メ講習会の開催や形状記憶合金製の神経メワイヤーを開発・導入することで地域漁業者が出荷する魚の品質向上に取り組むなど、水産業の振興に寄与している。
魅力ある漁村づくり	有限会社 マルトクスイサン丸徳水産 (対馬市)	磯焼けや漂着ごみなどの問題や、水産業の日常を観光資源とした体験ツアーを企画。飲食店と連携した食害魚や釣った魚の調理提供など、味わう体験の付加でツアーの印象を深めている。スタディツアーとして修学旅行や企業研修受け入れに取り組むほか、趣旨に賛同する企業によるWeb等での情報発信も進んでいる。 磯焼け等で収入が減少した漁業者のガイドや、養殖業者がアテンドするマグロ餌やり体験等をツアーに組み込み、関係者の収益向上に寄与している。

### 2. 長崎県漁業協同組合連合会長賞

部門名	受賞者名	概要
優良経営	有限会社 フジ 藤井からすみ店 (長崎市)	長崎を代表する水産加工品である「からすみ」の伝統製法をベースとしながら、品質向上と独自開発した技術により、食べやすい・購入しやすい・若者や女性を意識するといった商品づくりなどによる、からすみの認知度向上と新規購買層の開拓により、20年間で売り上げを2倍以上に伸ばした。 業界初の「スライスからすみ」、「からすみドレッシング」などの商品開発や、全国の品評会での最高賞受賞に加え、長崎俵物には5商品認定されるなど高い評価を受けている。
技術革新・人材育成	有限会社 オオシマスイサンショブウ 大島水産種苗 (西海市)	選抜育種による高品質な種苗の安定供給や、水産試験場の全雄トラフグ種苗生産技術開発に協力し、現在は単価が1割程高い全雄トラフグ種苗を県内の約4割生産するなど、本県の魚類養殖業の振興に貢献している。 自社の養殖では、遠隔給餌監視システム導入による経費削減、省人・省力化と水産加工による販路の確保に取り組んでおり、加工品は県水産加工振興祭で入賞している。
魅力ある漁村づくり	伊岐市磯焼け対策協議会 (壱岐市)	磯焼けに対応するため令和2年に市内の漁協、市、県が連携して協議会を立ち上げ、漁業者へ実績に応じた報酬を出してイソズミ駆除を推進するとともに、海藻の幼体を付着させた藻場増殖ブロックの島内各地への設置、母藻を島内で融通するための母藻供給ネットワークの構築などに取り組んだ。その結果、島内で合計26,664匹のイソズミ駆除と600枚の藻場増殖ブロック設置が行われ、令和5年には網囲いのない天然海域でのホンダワラ類藻場が推定200haにまで急速に回復した。

### 3. 特別賞(ながさき水産業大賞運営委員長賞)

部門名	受賞者名	概要
魅力ある漁村づくり	岐宿地区活動組織 (五島市)	令和2年より、磯焼けの要因となっているウニを継続的に駆除し、岩礁域でのホンダワラ類と砂地でのアマモの母藻設置を行った結果、藻場海岸線の長さが令和2年の212mから令和5年には1,981mにまで拡大している。 また、地元小中学生を対象としたウニ割体験や藻場に関する学習会を開催しているほか、活動組織に漁業者だけではなく漁業研修生やダイビングショップも含むことで、磯や藻場への理解増進など漁村の振興にも繋がっている。
優良経営	有限会社 ショウサイサン 勝栄水産 (新上五島町)	養殖したブリ、クロマグロは米国・韓国・中国などにも出荷してきたが、海外のニーズに合わせた大型化と高脂肪な魚づくりに取り組み、輸出向けが生産額の3割を占めるに至っている。上五島産の椿油を配合した餌で育てたブリを「勝ちブリ」としてブランド化し、中国への出荷では通常の1.2倍の単価で取り引きされている。 魚の大きさを自動で測定できるカメラを導入し、測定作業の軽減に加え、魚へのストレス軽減による歩留まり向上や、水中ドローンによる飼育魚や生け簀の管理も行っている。
優良経営	深江町漁業協同組合クルマエビ養殖場(南島原市)	ICT水質監視システムや出荷用水槽へのマイクロバブル発生装置の導入により、安定したクルマエビの活魚出荷を実現している。販売面では、ネット販売の強化により、出荷量の6割をネット販売等が占めるようになり、販売単価が向上している。 また、地元蒲鉾店等とのクルマエビを使用した新商品開発に加え、地元の重要な雇用の場となったことにより、地域の活性化にも貢献している。